

爪切り屋メディカルフットケアJF協会 協会通信

NO.15

心つなぐ足へのメッセージ

2013年 5月 発行

編集・発行 爪切り屋メディカルフットケアJF協会 広報委員会
〒179-0085 東京都練馬区早宮3-12-5 TEL 03-3992-1824 FAX 03-3992-3309

私とフットケア (連載)

爪切り屋メディカルフットケアJF協会

会長 宮川 晴妃



埼玉県志木市の依頼で、介護予防研究事業を山下和彦先生グループと一緒にしています。身体機能測定とフットケア・筋力アップ運動とを行い身体機能の変化を測定。

ケアを行う事で身体機能の向上・自立・介護予防につながることを検証することが目的です。」

10ヶ月間のケアを行った結果、良い数値ができたこととモデルになってくれた人達が「元気になった」「歩くことが苦にならなく、気持ちのよい日を過ごせるようになった」「爪切りは大事」「本当に爪のケアは必要」と介護予防には

無くてはならないものと認知してくださった事で目的をはたすことが出来たのではと思っています。平成25年度も引き続きフットケアと運動機能での身体機能測定を研究事業として行います。会員の皆さまに良きエビデンスを届けられる様に頑張りたいと思っています。

施術を行いながらアフターケアの指導、心のケアに参加して下さった会員の方々に頑張ってもらいました。平成25年度も6月から研究事業が始まりますので、ご協力をお願い致します。私も相変わらず、教室・講演等で普及活動に努めております。

フィンランドは森と湖の国と言われているように、白樺の緑の葉が美しく、れんげの花や水仙、色々な花が咲き乱れ自然に心が弾み唄を歌い口笛を吹き小踊りしたくなる6月を迎える頃はこんな季節です。思い出はフィンランドでいろいろありました。最後の講座の時、先生より「困っている人が沢山いると思います。晴妃頑張ってフットケアを広めて下さい。」と励まされましたが、3ヶ月間の思いが、胸に涙が溢れ先生にお礼の言葉も言えずに帰って来た事を今でも後悔しています。



ヘルシンキ大聖堂とエラインターハイ湾

写真：木村

爪切り屋メディカルフットケア J F 協会第 22 回研修会が、1 月 26 日 13 時 20 分から 16 時 45 分まで、TKP 神田ビジネスセンター 701 会議室にて、参加会員 42 名で行われました。

○講演 : 「人に寄り添う地域医療とフットケア」



講師 一般財団法人岩手済生医会 中津川病院

院長 松嶋 大 (まつしま だい) 先生

H P : <http://www.iwate-nakatugawa-hp.jp/>

在宅診療を頑張って医療の直すという事を第 1 に患者さんや地域の住民の皆さんの人生と日常と生活を支えよと取り組んでいる中フットケアを取り入れています。

フットケア実践

①在宅医療

こんなに綺麗になりましたと患者さんが足を見せてくれた 2012 年 1 月にフットケアを始め今では足趾も自在に動かして痛みもなくなる麻痺足でも踏ん張る事が出来利用になり ADL (歩行の安定、転倒予防) と QOL (痛みの消失、行動範囲の拡充、糖尿病壊疽の予防) の向上が見られた喜びの声

足が綺麗になるし施術者とのコミュニケーションが楽しい
フットケアは在宅医療をささえる

②健康増進外来

2003 年に国保藤沢病院で健康増進外来を創設

健康増進外来方式

完全な予約制、十分な診療時間、生活習慣を改善、心理的負担にも配慮した治療戦略を確立 (看護師の面談 30 分、医師の診断 5~15 分、適宜検査) 足もしっかり診る (足を通じたコミュニケーション) 毎回看護師、時々医師、必要があればフットケア依頼

健康増進外来で足を診る意義

糖尿病壊疽の予防、運動の為の足の健康維持、足を介したコミュニケーション

③フットケアと中津川病院

フットケア外来、病棟と在宅でもフットケアを行っている

中津川病院方式: 「ほっとさぽーと」と中津川病院の協働運営 (2012 年 9 月開設)

役割分担: ほっとさぽーとが運営一切、中津川病院は: 場所の提供、投薬治療、宣伝の補助
医療機関でのフットケア実施のメリット

事故発生時の迅速な対応、投薬治療の併用が可能、医療処置の適宜実施

2013 年中津川病院のチャレンジ

フットケア外来の拡充、病棟、在宅の実践の拡充、当院のフットケアの知識、技術の向上、勉強会実施の支援、できれば調査研究

○パネラー 1

爪切り屋メディカル J F 協会員 石井 裕美子 氏



テーマ: 総合病院で行うフットケア
危険な高齢者の肥厚・変形爪

すべての人が対象で自分の足で快適に歩く事を目標にかかげる

肥厚爪が皮膚を傷つける事がきっかけで切断になってしまう
現実がある事からフットケアの必要性がある

○パネラー 2

協会員 三浦 和子 氏



テーマ：メディカルフットケアワーカーとしての当病院での活動

- ・平成21年4月よりフットケア外来を始まる
医師による指示のもとフットケアを行っている
- ・外来の他病棟・看護師・介護スタッフ等に勉強会を行う
- ・白癬・巻き爪・肥厚爪・胼胝・鶏眼がフットケアによる改善が見られた

○パネラー 2

協会員 小角 和子 氏



テーマ：介護施設・在宅でのフットケアの関わりから
～ もっと足を見てね ～

- ・眼の不自由な方の爪切りに関わったことからフットケアの大切さを痛感。
フットケアの技術を習得し高齢者のケアを行い高齢者より感謝されやりがいを感じている
- ・精神科でのフットケアで爪の変形が改善された
- ・在宅でのフットケアでは本人はもとより家族に喜ばれる
- ・手作りでの靴下を履く補助具の報告

○全体ディスカッション

- ・フットケアの認知度が低くなかなか認めてもらえない
- ・リスクマネジメントが必要（問題があったときの対処）
- ・相談できる皮膚科医師が必要ではないだろうか
- ・フットケアワーカーだけではなく医師、看護師、介護士が足に関心を持ってもらう事が対象者のADL・QOLの向上に重要なのではないだろうか

残念ながら今回新しい形式での試みであった為、全体的に時間が押して後半の全体ディスカッションの時間が短くなりじっくりと語り合えずに終了してしまいました。
今後の研修進行に課題が残ってしまいました。

会 員 報 告

・・・ 2013年1月27日

○第71回日本公衆衛生学会 出展報告

会 員 木村 鉄也 氏



昨年10月24日～26日71回日本公衆衛生学会出展の経過報告として「心つなぐ足へのメッセージ」「フットケアの重要性についての周知」「協会の広報活動をテーマとして取り組んだ事で協会のフットケアの取り組みの広報活動が出来たのではないかと、また、その反面認知度の低さも実感した。良かった点、反省点を今後に活かして広報活動に役立ててもらいたい。出展中にも反応もあり出展後他の出典依頼があった事などから、今回の出展広報活動は成功したと思われる。

○杉並区のイベント参加報告

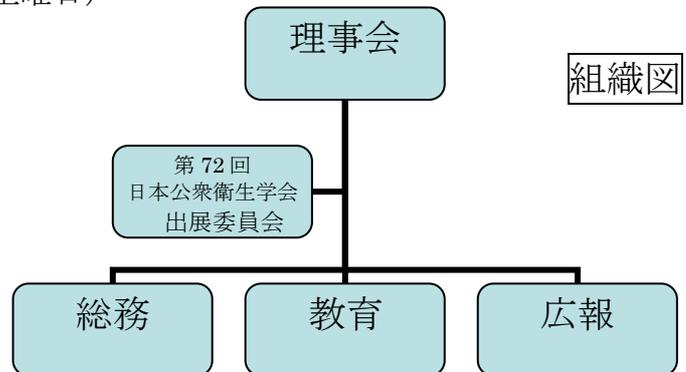
会 員 川井 とも江 氏



アラウンド杉並健康ライフでの活動報告を行った。
体力テスト（転倒リスクを考えよう）の項目として握力、前屈、足指の圧力、足指の圧力、開眼片足立ち、ファンクショナルリーチ等を行い、足指の清潔を保つため、足浴方法を中心としたフットケアを行った。
当日の入場者数、年齢別、多かった催しの数字をあげ今後の参考とした。

- ・第72回日本公衆衛生学会 総会 三重に企業出展が決定しました
- ・各委員会での中間会計報告を行いました
- ・賛助会員特典「1回無料で施術を受ける事が出来る」を2013年1月27日付けで削除します。
- ・平成25年度の総会開催日程が決定しました。
開催日：平成25年4月13日（土曜日）

- ・第36回理事会を平成25年2月23日に行う。
- ・第37回理事会を
平成25年4月13日の研修日に行う



第72回 日本公衆衛生学会 総会 三重 出展参加者募集

- ・第23回理事会に於いて第72回日本公衆衛生学会に企業展示する事が決定しました。
昨年の結果をもとにより良い協会の広報活動をしていきたいと思ひます
- ・開催日：平成25年 10月23日～25日
- ・委員長：木村鉄也氏、委員：大須賀範子氏、山田直美氏を任命しましたが 他に資料作成や現地での実技・広報活動をして頂ける方を募集します。

事務局より

○平成25年度第24回研修会は、7月13日（土）に黒田恵美子氏のウォーキング講座を予定しています。

黒田恵美子氏については黒田恵美子氏のホームページをご覧ください

<http://jasmine-cafefitness.jimdo.com/>

書籍紹介



月刊ブリコラージュ
12月号 Vol.213

三好春樹責任編集
定価：500円

会員の川崎美織氏による特集記事

「もう、見ないフリしない！
私にもできるフットケア」

掲載されています

編集後記

3月に発行の予定の協会通信15号でしたが、都合により5月の発行になりましたことをお詫びします。

会員の皆様からのご意見をお待ちしています。

広報委員：関根 木村 三枝